

図書館運営基本計画(案) パブリックコメント結果

1. 意見募集期間 令和5年1月20日から令和5年2月19日
2. 閲覧場所 市役所（行政情報コーナー）、一色支所、吉良支所、幡豆支所、佐久島出張所、中央・寺津・米津・福地・西野町・八ツ面・鶴城・室場・三和・矢田・横須賀ふれあいセンター、西尾市立図書館、一色学びの館、吉良図書館、幡豆図書館
3. 意見の提出方法 直接持参、郵送、FAX、電子メール
4. 意見の提出者数 1人(4件)
5. 意見の反映 無し

NO	いただいた意見	市の考え方
1	<p>学習センターとしての役割を大きくしてほしいものです</p> <p>図書館は学習や趣味の時間を提供してくれます。ありがたいことです。しかし、その媒体は紙から映像等に大きく変化しています。本屋が町から急激に減ったことは、社会の変化を示しています。映像はスマートフォンやPCで手軽に手に入ります。図書館に行かなくても済みます。従来の図書館機能も大切ですが、ほんの少し、修正してもいいように思います。中高年者は新しい学びに積極的です。また、子どもたちにとっても自ら学ぶ力の獲得が大切です。(あくまでも、学ぶ力であり、学習で得られる知識等ではありません)それを支える機能を図書館に期待したいと思います。具体的な提案はできませんが、多くの市町村で取り組み事例があると思います。よろしく願います。</p>	<p>図書館は、市民の生涯学習を支える場として、ニーズに応じた情報を提供するとともに、地域の歴史や文化などの研究・学習に資するための、地域資料の収集・整理・保存・学校教育の支援、仕事や生活に役立つ情報の提供などの役割を果たす施設であります。</p> <p>紙の本以外にも、映像や電子書籍をはじめとした各種媒体を活用した、魅力ある企画展示の実施により、学ぶ意識が高まるような情報の提供や、講座、ワークショップ等の開催など、学習センターとしての役割を一層持たせてまいります。</p> <p>これらの内容は、計画の中の「第4章 基本施策 2 誰もが利用しやすい図書館へ」の中に、乳幼児から成人までの「図書館利用・読書活動の推進」として記載してありますので、ご理解ください。</p>

<p>2</p>	<p>子どもの「読みたい本」の充実をお願いします</p> <p>図書館の素晴らしいことの一つは「お金を払わなくても本が読める」ところです。ありがたいです。このことは経済的に自立していない高校生を含む子どもたちにとって大きなメリットです。そのため、子どもたちの読みたい本を充実してほしいと思います。図書館に携わる方々は知識や経験をもとに「読ませたい本」があり、その本に期待する願いがあります。それはとても大切なことだと思います。ただ、それだけでなく、子どもたちの読みたい本の充実もお願いします。たとえば、マンガです。手塚治虫の本「火の鳥」等は収蔵されています。もちろん素晴らしい本です。しかし、「こち亀」「スラムダンク」「ポケモン」などの本は見当たりません。(あったらすみません) こういった本もあってもいいかと思います。以前、京都のマンガミュージアムに行ったことがあります。多くの若者でにぎわっていました。若者が読みたい本(マンガ)が多くあるからでしょう。</p>	<p>マンガは、子どもだけでなく大人にも人気の、日本を代表する文化であります。内容も幅広く多岐に渡るため、図書館に所蔵する本につきましては、「西尾市立図書館蔵書収集指針」に基づき、「すでに完結した作品で評価の定まった作品を収集する」こととしており、西尾市の図書館でも「こち亀」「スラムダンク」なども所蔵しております。</p> <p>マンガ・コミック本は安価なため、装丁が簡易であり、壊れやすいことが、図書館での所蔵・貸出の課題であります。</p> <p>しかしながら、子どもたちが図書館に足を運ぶきっかけになることや、評価の高いマンガは文学に匹敵する力を持っているため、児童書、マンガを区別することなく、子どもの発達に応じて豊かな読書体験ができるような資料を収集し、子どもたちの読みたい本を充実させていきます。</p> <p>これらにつきましては、計画の「第4章 基本施策 1 西尾市らしい図書館運営へ」の中に、「図書資料の収集・保存」として「多様化する市民ニーズに対応した計画的な収集」とあり、マンガ本の収集についても考えてまいりますので、ご理解ください。</p>
<p>3</p>	<p>わたしは本屋のある町に住みたい</p> <p>本屋が少なくなりました。社会の流れかと思えます。しかし、本屋での立ち読み、書籍の購入は文化の一つです。私も立ち読みが好きです。月に何度か本を購入します。図書館の役割ではないかもしれませんが、地域の書籍や出版の文化を守ることもお願いしたいものです。図書館の本の多くはTRCから購入していると聞きました。TRCは図書館運営のノウハウ等ももっていて、取引するのに大きなメリットがあります。しかし、地元の本屋を少しでもつかってほしいと思います。(西尾市が地元の本屋をつかっているのならすみません) 図書館の目的から逸脱するかもしれませんが、このような地元の本屋を支援する、立ち読み文化を育む活動もやっていただきたいと思えます。</p>	<p>図書館流通センター(TRC)は、図書館との取引が多く、新刊書などの在庫を豊富に持つことと、書誌データや装備(背ラベルやバーコードの貼付、ビニルコート掛け)された状態で納品されるため、多くの公共図書館や学校図書館が利用しています。西尾市でも、地元の書店を通して図書館流通センターから購入をしています。</p> <p>また、雑誌につきましては、そのほとんどを地元の書店から購入し、ほぼ毎日納品していただいております。</p> <p>毎年秋に鶴城公園内で開催する「にしお本まつり」では、地元の書店、古本屋などが本の販売等を行い、まつりを盛り上げています。地元の書店が減少していくことは残念なことでありますが、図書館で借りた本で良かったものは手元に残しておきたいから書店で購入する、といった方が増えることを願っております。</p>

4	<p>最後にごくごく具体的な提案です（本当に具体的なお願い）</p> <p>平坂町にある勤労会館に学習室ができたと聞きました。この運営を図書館にやっていただきたいです。できることなら「西尾市立図書館平坂分館こども・マンガ館」として。学習室は学習したい子どもにとってとても大切な空間です。子ども向けの本やマンガを置くことは子どもたちが本に触れるきっかけになります。図書館の運営とするのは前向きな空間を作るためです。一考をお願いします。</p> <p>勝手なことを書きました。読んでいただけただけでもありがたいと思います。釈迦に説法かと思いますが、10年後、20年後の西尾市の文化の在り方を考え、その中で、今、図書館の果たせる活動をお願いします。なかなか実現できることは少ないと思いますが、どこかで参考にしていただけるとありがたいです。</p> <p>今後も図書館が市民から支持される施設（本屋さんも生き延びる市）であってほしいと願います。</p>	<p>平坂町にあります西尾勤労会館は、西尾市・愛知県・雇用促進事業団が共同で設置した勤労者のための施設であり、指定管理者により運営されております。</p> <p>施設に確認したところ、現在の学習室スペースは市民からの要望で設置されたもので、ロビーの一部に数席分の机といすが配置されています。また、学習室として単独の部屋を用意することは、施設的に難しいとのことでした。このような状況でありますので、ご提案をいただいたような運営を図書館が行うことは考えておりません。</p>
---	--	---